

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	沖縄市こども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年2月9日	～	令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51 (回答者数)	32
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園であることから、こどもは保護者がいる安心した環境の中で療育に取組様々な経験を積み重ねることができる。また、保護者にとっては、こどもの対応の困り感に対し、関わり方を具体的に学ぶことができる。	療育活動のねらいをセンターだよりや集いの会で説明し、目的をもって取り組んで。また、こどもの行動の背景について、一緒に考察したり、具体的な関りについて実践したり、助言をしている。	活動の振り返りを通して、職員間で情報の共有を図り、助言した対応の結果等を踏まえ、支援の質の向上に努めていく。
2	親勉強会（ペアレントタイム）や保護者交流会を通して、子育てに関する悩みの共感や理解を得られる場があり、孤独感の軽減へと繋がる。また、情報交換が行われることで、育児に関する考え方の参考や見直すきっかけにも繋がること。	保護者分離を図り、落ち着いた雰囲気の中で情報交換や学びの場となるようにしている。 集いの会で、活動の振り返りを行い保護者の気持ちを発表する場をもつことで、それぞれの思いや気づきを共有し、育児の自信へと繋がるようにしている。	日程を早めに周知し、保護者が参加しやすいように努める。
3	トランポリン、スイング等の療育器具や十分な広さの空間が確保されていて、こどもが遊びを楽しめる環境がある。 ※近隣には、公園や遊歩道もあり、様々な療育プログラムで遊びの充実を図っている。	こどもの発達に応じた療育のプログラムに加え、季節を感じることもできる遊びの提供を心がけている。	研修等に参加し、療育の環境を見直し、療育がさらに充実するように努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の事業者や保育所等との交流が希薄である。	親子の支援を優先しているため。	事業所交流に関するねらいや目的について十分に検討する必要がある。
2			
3			